

報告

九州支部集会報告

仲野 誠（大分大学教育福祉科学部）

九州支部では毎年各県持ち回りで支部集会を開催しています。今年は大分の順番に当たり、2003年11月8日（土）、9日（日）に大分大学教育福祉科学部で支部集会を開きました。九州支部としては初めての2日間にわたる集会でしたが、今年は早めに日程を決定し、大学側からは大分大学生涯学習教育研究センター、地元の天文アマチュア団体として大分天文協会の方々の協力を得て、最終的には総計62名もの参加者があってにぎわいました。

大分で支部会を開くにあたり、やはり一般の方にも著名な方を招いて天文関連の講演会を開催し、その折りに支部集会を行うのが研究会の認知度を上げるには一石二鳥です。ただ、その場合は経費の問題がネックになっていました。しかし、今回幸いにも大学の「生涯学習研究開発・地域連携事業」に採択されたことによって予算を獲得することができました。また、予算と同時に広報に関しても大学を通して行うことができたことで、九州の支部会としても多くの参加者を集めることができたと考えています。残念ながら9日は衆議院の選挙当日というおまけもありました。

さて、そういうことで支部集会の前に講演会を行いました。お招きしたのは佐治天文台台長の香西洋樹さん（図1）です。今回は「暗い夜空は誰のもの-星の囁きを聞こう-」というタイトルで、香西さん自身が中心となって、進めてこられた夜空の明るさの問題についてお話いただきました。香西さんが仕事をしてこられた東京天文台、堂平観測所、木曾観測所などにおける創設期から現在までの夜空の明るさの変遷、夜空の暗さを守るための環境

庁（当時）への働きかけややりとり、スターウォッチング・ネットワークの舞台裏、果ては教会の建築構造などにも話が及びました。折しも大分の議会でもパチンコ店のサーチライトが環境問題として取り上げられたりしていたので、地元新聞にも講演会が取り上げられたり、参加者にも県の担当部署の方のお名前があったりしました。「光害」という言い方は良くない、むしろ「光と闇の共存」が大切であるという香西さんの主張には多くの聴衆の同意を得ていたようでした（図2）



図1 香西洋樹さんの講演



図2 会場風景

参加者を引き込んだ香西さんの講演の終了後は支部集会（残念ながら実質的には会員の割合は少ないのですが）の一般発表にうつりました。熊本県民天文台の艶島敬昭さんは香西さんの話に引き続く形で、現在取り組まれている「防犯灯」プロジェクトで住民やメーカーを巻き込んでの市民運動の成果を話されました。工藤-藤川彗星の発見者である熊本の工藤哲生さんは「彗星の発見前夜」と題して、手作りの観測所と彗星発見までの裏話をされました。鹿児島島の森永成一さんは「コンパクトデジタルカメラを使った火星の撮影」、北九州の坂本文雄さんは「デジタルカメラを使った観望会の実施について」と、いずれも扱いの簡単なデジタルカメラを利用した観望会の話題が続きました。その夜の香西さんを囲んでの懇親会にも20名近くの参加者を得て、盛り上がったことは言うまでもありません。

さて、翌日は長崎県天文協会の松本直弥さんが「2004年金星太陽面通過の記念事業」ということで、歴史的にも長崎とも大きなかわりのある金星の太陽面通過が2004年の注目すべき天文現象であることを強調されました。九州東海大学の鳴海泰典さんは「2003年火星大接近と火星探査機『のぞみ』の近況」と題して、2003年の話題の中心となった火星に関連して、火星に向かう「のぞみ」の状態が思わしくないことの報告や、極冠の消長についてのご自身の研究の話をされました。

九州ではAstro-HSの活動の中心となっておられる鹿児島の前田利久さんは2003-2004年の活動の総括をされ、佐賀から参加の下山田隆さんはご自身お勤めの中学校の生徒対象にされている「星座の立体感を高める教材の工夫」を、教材の実物を手に発表されました。発表の最後は宮崎から来られた服部勇吉さんが「古代星座と西都原古墳群」と題して、古墳群の配置が星座を形作っているという独自のアイデアについて話されました。

発表の後は松本さんの提案で、九州各県の天文普及に努めておられる方々から2003年夏の火星大接近にからむ各地の普及活動を報告・紹介が行われました。いずれも予想もできなかったほどの沢山の一般の方々の関心を集めたことに、今更ながら驚ろくと同時に、私自身も多くの本集会参加者たち（図3）の普及にかける意気込みにも刺激を受けました。なお、来年度の集会は九州東海大学の白鳥さんを中心として熊本県の会員にお世話いただくことになりました。

最後になりましたが、今回の講演会・支部会の開催にご協力いただいた皆さん、そして参加者の皆さんに御礼を申し上げます。



図3 支部集会参加の皆さん